

八幡平市民歌歌詞決まる

市は、9月で合併5周年の節目を迎えるに当たり、合併した市民の一体感の醸成を図るだけでなく、市を全国へアピールするために、市民歌の制定を開始しました。「歌詞」を募集したところ、全国から133件の応募があり、選考の結果、東京都世田谷区の保岡直樹さんの歌詞が選ばれました。

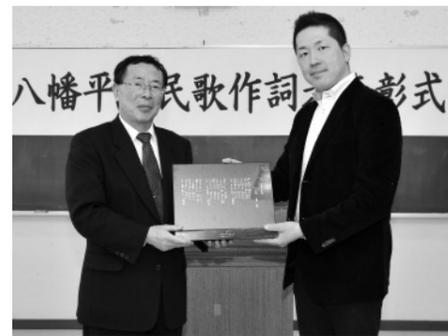
八幡平市民歌

作詞 保岡直樹

一、若い息吹に 満ちあふれ
農と輝の 夢よぶ大地
ながれ清らな 川がある
いのち育む 土がある
四季の恵みの 幸うけて
ああ あしたを拓く 八幡平市

二、花は lindou 咲き薫り
ふれあう人の和 明るい笑顔
みどり豊かな 山がある
歴史ささやく 路がある
心ひとつに 肩よせて
ああ しあわせ築く 八幡平市

三、伸びるアカマツ たくましく
飛翔くヤマドリ 耀く空へ
ここに理想の 街がある
未来を彩る 虹がある
力あわせて 躍進の
ああ 希望に燃える 八幡平市



田村市長から歌詞が書かれた安比塗の記念盾を受け取る保岡直樹さん(右)

◆作詞者・作品への思い
市民憲章を何度も読み込み、心ひとつに未来へ躍進する八幡平市を力強く表現しました。「農と輝の大地」というキャッチフレーズを作品に活かし、明るくあたたかく、元気の出る歌を心掛けました。「リンドウ(市の花)」、「ヤマドリ(市の鳥)」、「アカマツ(市の木)」を歌詞に織り込み、街の風景が浮かぶ工夫をしています。広く、永く、八幡平市の皆さまに愛される市民歌になればと願っています。

9月には合併5周年の節目を迎えるに当たり、市では、市民の皆さんが郷土愛を高く、市の一体感を感じることが出来る「八幡平市民歌」を制定することにしました。制定に当たり、大学教授や演奏家などからなる八幡平市民歌制定検討委員会(赤澤義昭委員長、委員8人)を昨年12月2日発足しました。検討委員会では、歌詞を全国公募することとし、子どもから大人まで世代を超えて歌い継がれるような歌詞を募集したところ、9歳から90歳まで県内38件(うち市内15件)、県外95件、計133件の応募

があり、審査の結果、保岡直樹さん(39)の歌詞を採用することが3月15日開催の第3回検討委員会で決定。選考理由については、「市民憲章の精神に沿っている」「歴史に目を向けながら未来志向」「老若男女どの世代でも親しめる」などが同委員会委員から挙げられました。作詞者の表彰式は3月30日、市役所で行われ、田村市長から保岡さんに賞状と歌詞が書かれた安比塗の記念盾などが贈られました。今後、専門家が曲を付けて、11月3日開催の市民憲章推進大会で披露する予定です。

CONTENTS

- 目次
- 02 ZOOM UP 人
山本拓実さん
- 03 Front Topics
八幡平市民歌歌詞決まる
- 04 特集 市議会議員選挙
- 08 市長とのフリートーク
3月25日市PTA連絡協議会
- 09 春の叙勲市内から3人が受章
各課からのHOT LINE
埋蔵文化財現地確認にご協力を
人権擁護委員に大森貞子さん委嘱
- 10 国民健康保険税が変わります
- 12 話題ピックアップ
八幡平山開き/安代漆工技術センター入所式 ほか
- 16 福祉ネットワーク
保健のひろば 介護のココロ
環境のみらい
- 17 まちの企業探検隊
子ども手当スタート
- 18 博物館だより 図書館だより
- 19 よろこび おくやみ
広報クイズ
- 20 暮らしの情報カレンダー
- 22 INFORMATION
- 24 八幡平いにしへの宝
木造地藏菩薩立像



山本 拓実 さん

やまもと・たくみ・西根中学校3年・下町三区

◎profile

1995年八幡平市生まれ。6歳でスキーを始める。昨シーズンはジュニア五輪出場、東北中学校スキー大会大回転6位など入賞多数。好きな選手は大越龍之介選手(東海大)。尊敬する人は新里優子先生(西根中)。西根中学校では生徒会長を務める。「何事も前向きで、やると決めたら全力で取り組む。中途半端は嫌いな性格」と自己分析。167cm、60kg、血液型B型のしし座、14歳。

絶

対に優勝する。自信に満ち溢れていた。4月3日、4日に下倉スキー場で行われた第34回県中学校スキーアルペン競技記録会。難度の高いポールセットを落ちて攻め、2本とも最高タイムをマークして大回転を制した。

この優勝には伏線があった。2月に本市で行われた全国中学校スキー大会に出場。全国トップレベルの選手の意識の違いに衝撃を受けた。アルペン競技はわずかなミスがタイムを左右する。考えながら練習に取り組み、一本一本の滑りを大事にするようになった。スキー競技は現在オフシーズン。夏はサッカー部に所属しながらも、イメージを見失わないよう、自分の滑りと目指す滑りのビデオを見て研究する努力を欠かさない。



今月の表紙

JR東日本盛岡地区指導センター主催の鉄道安全教室は4月15日、平舘小学校(松村秀二校長、児童131人)で行われ、1、2年生38人がトレインジャーなどのキャラクターと手をつなぎ、「右、左、もう一度右」と実際に正しい踏切の渡り方を学びました。

集中し難コースを攻略 来季に弾みつく優勝

「中学校生活最後の年。目標は全国入賞」と語る山本君。天性の運動センスに努力が加われば、来シーズン全国の舞台でその才能が開花することだろう。